

／ やってみよう！ ／
登下校
見守り活動
ハンドブック



発行日：令和3年3月

発行元：文部科学省総合教育政策局

男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育推進室

① はじめに

② 活動してみよう

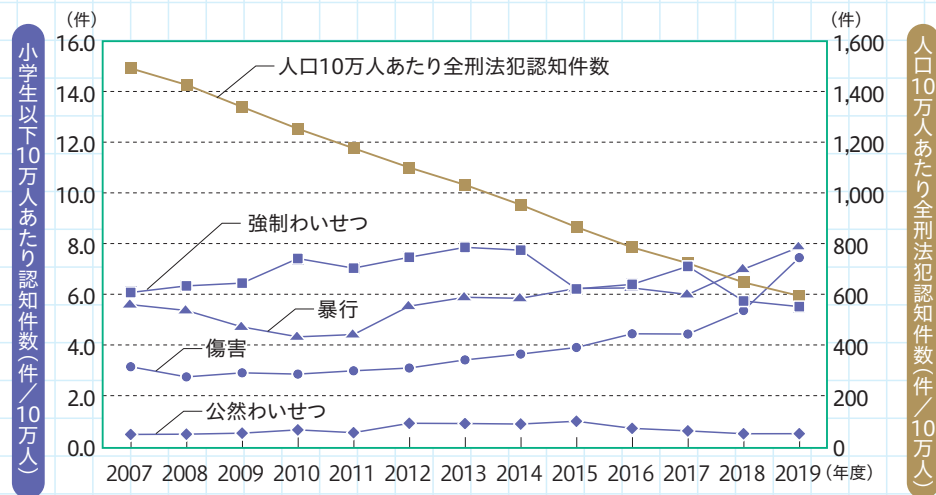
③ こんなときどうする

④ 持続可能な活動に向けて

1 はじめに

安全・安心な登下校の実現に向けて

- 全国で子供が登下校中に犯罪被害に遭うケースがみられます。被害の多くは、子供だけで行動しているときや、人の目が少ない状況で発生しています。
- こうした犯罪被害を減らすためには、地域全体で、登下校中の子供たちの見守り活動をするのが欠かせません。
- 一方で、見守り活動を含めた防犯ボランティア活動者数は近年減少しており、今、みなさんの協力が求められています。



〈出典〉警察庁「令和元年の刑法犯に関する統計資料」、総務省統計局「人口推計」、総務省統計局「我が国の子どもの数-「こどもの日」にちなんで-」(平成19年～令和元年)より作成
 〈注〉小学生以下人口は総務省統計局による推計値

地域ぐるみの見守り活動と効果

- 登下校時の見守り活動は、学校を中心に、保護者やPTA、地域住民、行政、警察、民間企業、地域団体等が一致団結して連携・協働し、地域全体で取り組むことが重要です。
- 一人一人ができる範囲で、子供たちや地域へ目を向け、見守り活動を実施することで、犯罪や事故が起きにくい環境をつくることができます。
- なお、見守り活動は無理なく行いましょう。小さな取組の積み重ねによって、地域全体で子供たちの安全を守る環境が生まれるとともに、地域コミュニティの活性化も期待できます。



ハンドブックについて

このハンドブックは、これから見守り活動を始めようと思っている方々に向けて、必要な心構えや活動方法などの見守り活動の基本を紹介するだけでなく、既に見守り活動を行っている方々に対しても、見守り活動の効果を高めるポイントや優良事例を紹介しています。保護者やPTA、地域住民、学校、行政等、見守り活動に関わる全ての方々に参考としていただける内容となっています。

2 活動してみよう

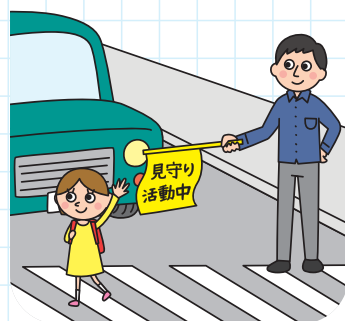
見守り活動の例

- 見守り活動の代表例として次のような活動があります。

定点見守り りっしょう (立哨指導)

特に交通量の多い交差点や、見通しの悪い道、人通りの少ない道などに立って、子供が安全に通行できているか見守ります。

立つ場所は、活動者が自ら考えて決める場合や、活動団体や組織で決まった場所とする場合があります。



登下校への付き添い

特定の区間あるいは学校まで子供に付き添って見守ります。

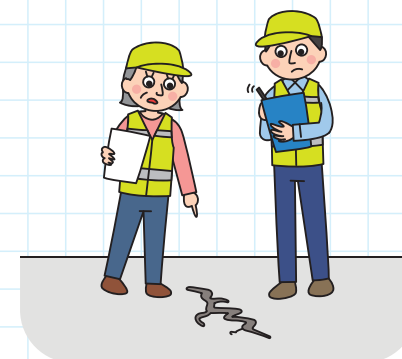
通学路が広域にわたる場合には地区ごとに付き添いの引き継ぎをする例や、活動者の自宅周辺の子供にスクールバスの停留所まで付き添う例もあります。



3

点検・巡回

登下校中に限らず、通学路を点検・巡回しながら危険箇所を把握し、学校や市町村へ報告することも重要な見守り活動のひとつです。



2 活動してみよう

ながら見守り

特に登下校時間帯に合わせて外に出て花に水やりをする、家の前で掃き掃除をする、通勤時間をずらす、犬の散歩をするなど、時間と場所を工夫して、何かをしながら登下校中の子供たちを見守ります。



4

見守り活動の心構え

- 地域住民による見守り活動は「地域活動」の一環です。警察等が実施するような「警戒・パトロール(警ら)」ではありません。
- 一人一人が無理なく、できる範囲で取り組むことが重要です。

見守り活動の始め方

- 「子供見守り隊」や「スクールガード」、「安全サポーター」等、見守り活動団体の呼び方は様々です。既に活動している団体について知りたい場合は、お住まいの市町村や近くの学校に問い合わせてみてください。
- また、こうした団体に所属せずに行う「ながら見守り」等も大切な見守り活動の一つです。各自のライフスタイルに合わせて、子供たちや地域へ少しだけ意識を向けることで、登下校時の「子供たちを見守る目」や、通学路の「危険箇所の発見」を増やすことにつながります。



見守り活動者の方々へ 活動を始める前に確認しましょう

- 以下の行為はやめましょう。
 - × 活動の強制
 - × 警察が実施するような取り締まりや警棒等の武器の所持
 - × 子供との過度なコミュニケーション(過度な接触、あめ・ガム等を含む飲食物の提供、自家用車や私有地への招待、連絡先の交換等)
 - × 子供を叱る、しつけようとする行為(子供の安全を守るための指導は可)
- 万が一に備えてボランティア保険や防犯協会等の団体保険に加入しましょう。保険料を補助する市町村もあるので、問い合わせてみましょう。

市町村・学校の方々へ 関心を持った人を大事にしましょう

- 地域住民から「見守り活動をしたい」と問い合わせがあったら、見守り活動を所管する課・担当者につなぐ、あるいは実際に活動する団体のリーダー等に紹介するようにしましょう。

コラム 1 見守り活動を始めたきっかけは自分のため。それが子供の安全につながる。

鳥取県湯梨浜町オレンジベスト隊 隊員

長続きする方は「自分のため」に活動している人が多いです。私自身も見守り活動により、子供たちの登下校時間に合わせて規則正しい生活を送れるようになりました。見守り活動を通じて、子供たちから元気をもらい、心身ともに健康な日々を過ごしています。

見守り活動時の持ち物とは？

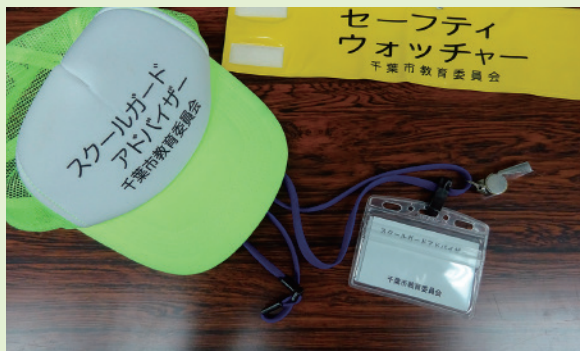
- 見守り活動時の持ち物の例は次のとおりです。必ずしも全てを準備する必要はありませんが、見守り活動中であることが一目で分かることが、活動のしやすさや、犯罪を防ぐ効果を得られるほか、子供の安心感にもつながります。

- 見守り活動に必要な装備品・携行品は、学校や市町村が貸出もしくは提供している場合がありますので、まずは相談してみましょう。

具体例 見守り活動時の持ち物やあると便利なものの例

- **ベスト・ジャンパー** 蛍光色など目立つ色とし、反射材が付いているとよい。
蛍光色など目立つ色とし、反射材が付いているとよい。
- **帽子** 蛍光色など目立つ色とし、反射材が付いているとよい。また、様々な季節に対応できるよう、夏用・冬用があるとよい。
- **タスキ・腕章** 蛍光色など目立つ色とするよい。
- **名札** 見守り活動者であることを示すものとして携行するとよい。
- **横断旗** 横断歩道や交差点を見守る際にあるとよい。

※上記のものは、市町村が貸与したり、見守り活動団体が独自に準備したりする例が多くあります。

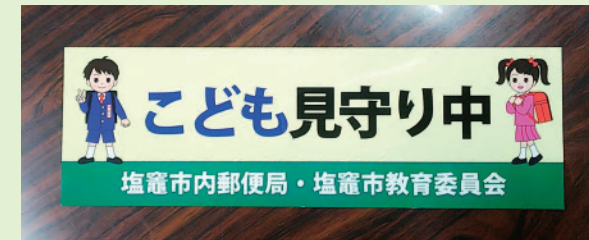


▲活動時の帽子・腕章・名札
(千葉県千葉市)



▲活動時のジャンパー
(宮城県白石市)

- **携帯電話** 緊急時にすぐ110番通報することができる。また、学校や行政担当者の連絡先を控えておくのに便利。
- **ペン・メモ帳** 活動中に感じたことや危険箇所等の情報の記録に使用。
- **懐中電灯** 活動中に辺りが暗くなる場所では携行しているとよい。なお、人や車両等には向けないようにしましょう。
- **笛・防犯ブザー** 危険が生じたときに、当事者や周囲に知らせるために携行しているとよい。
- **飲料水** 特に夏季の活動中には適度な水分補給が重要。



▲見守り活動中ステッカー(宮城県塩竈市)

見守り活動の効果を高めるためには？

▶ 「見てもらう」ことを意識しよう

- 見守り活動は、活動をしている姿を見てもらう（地域住民に活動を認知してもらう）ことが重要です。
- 活動が認知されることにより、子供や地域住民の安心感につながるのはもちろん、運転者が気を付けるようになる、犯罪を企てていた人が犯行をやめるなどの効果が期待できます。
- 一方で、子供や地域住民から見られていることを意識し、態度や言動、身だしなみに注意しましょう。また、警察が実施するような交通整理等は控えましょう。



▶ 挨拶や声かけをしよう

- 子供への挨拶・声かけはもちろんのこと、地域住民への挨拶も積極的に行い、見守り活動を実施していることを皆さんに知ってもらいましょう。
- 不審な行動を取る人や犯罪を企てている人は声をかけられることを嫌います。積極的な挨拶が、犯罪抑止につながります。
- 加えて、活動者同士でも積極的に挨拶をしましょう。活動者間のコミュニケーションは、地域コミュニティの活性化にもつながります。なお、良好なコミュニケーションには「挨拶（こんにちは）＋一言（状況はどうですか？ 初めてお会いしましたか？ 等）」がポイントです。

見守り活動者の方々へ 挨拶や声かけのワンポイント

- 子供たちの横断のために止まってくれた運転者に対して会釈するなどの、少しの心遣いが運転者の協力しようという意識につながります。
- コミュニケーションが苦手な子供もいます。挨拶を返さなかった子供に対して「挨拶しなさい」などと叱ることは控えましょう。

▶ 地域ぐるみで連携・協働しよう

- 見守り活動をさらに効果的なものにしていくため、学校や市町村、警察と連携し、地域ぐるみで活動しましょう。
- 地域内で実施されている他の見守り活動者や防犯ボランティア団体とも積極的にコミュニケーションを取り、見守り活動上の役割や見守る時間・場所を分担するなど、協働して活動しましょう。実際に活動している人をマッピングしてみると、見守りの空白地帯が分かりやすくなります。

市町村・学校の方々へ 見守り活動者と活動団体の連携・協働を主導しましょう

- 市町村内で活動する団体間の連携を図るには、市町村や学校の協力が必要不可欠です。積極的に交流できる機会をつくりましょう。協議会や意見交換会、研修会等を開催するのも一つの手です。
- 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」において見守り活動を取り上げたり、学校と地域が相互にパートナーとして行う「地域学校協働活動」の中で登下校の見守り活動を行うことも考えられます。

コミュニティ・スクール、地域学校協働活動について

「学校と地域でつくる学びの未来」
<https://manabi-mirai.mext.go.jp/>



▶ 「ハウ(報告)・レン(連絡)・ソウ(相談)」を意識しよう

- 活動中に感じたことや気付いたこと、危険を感じたできごとは活動者間で共有しましょう。簡単な活動日誌を付けている例もあります。
- 場合によっては、学校や市町村に共有すべきこともあります。事前に連絡体制を構築し、「誰に(〇〇先生、△△主事等)」、「どのように(電話、メール、FAX等)」情報を連絡すべきか決めておきましょう。
- 市町村・警察等が配信する安全・安心メールやSNSを登録し、通学路の安全に関する情報をチェックしましょう。

市町村・学校の方々へ 連絡体制を明確にしましょう

- 活動者は、日々見守り活動をしていると、危険だと感じる場所や不審な行動を取る人がいることなど、様々なことに気が付きます。何かがあったときに、誰に、どのように連絡すればよいか明確にし、活動者に伝えておきましょう。
- また、通学路の危険箇所や、活動中のできごと等、活動者からの指摘・相談にどのように対応したのか、対応するのかフィードバックしましょう。



通学路に潜む危険とは? どのような場所や行動が危険か、考えてみましょう

雑木林

広がって歩く

建物裏

公園のトイレ

公園からの急な飛び出し

駐車場

空き地

空き家

路上駐車

交差点

生い茂った草木

信号のない横断歩道

青信号で急に走る

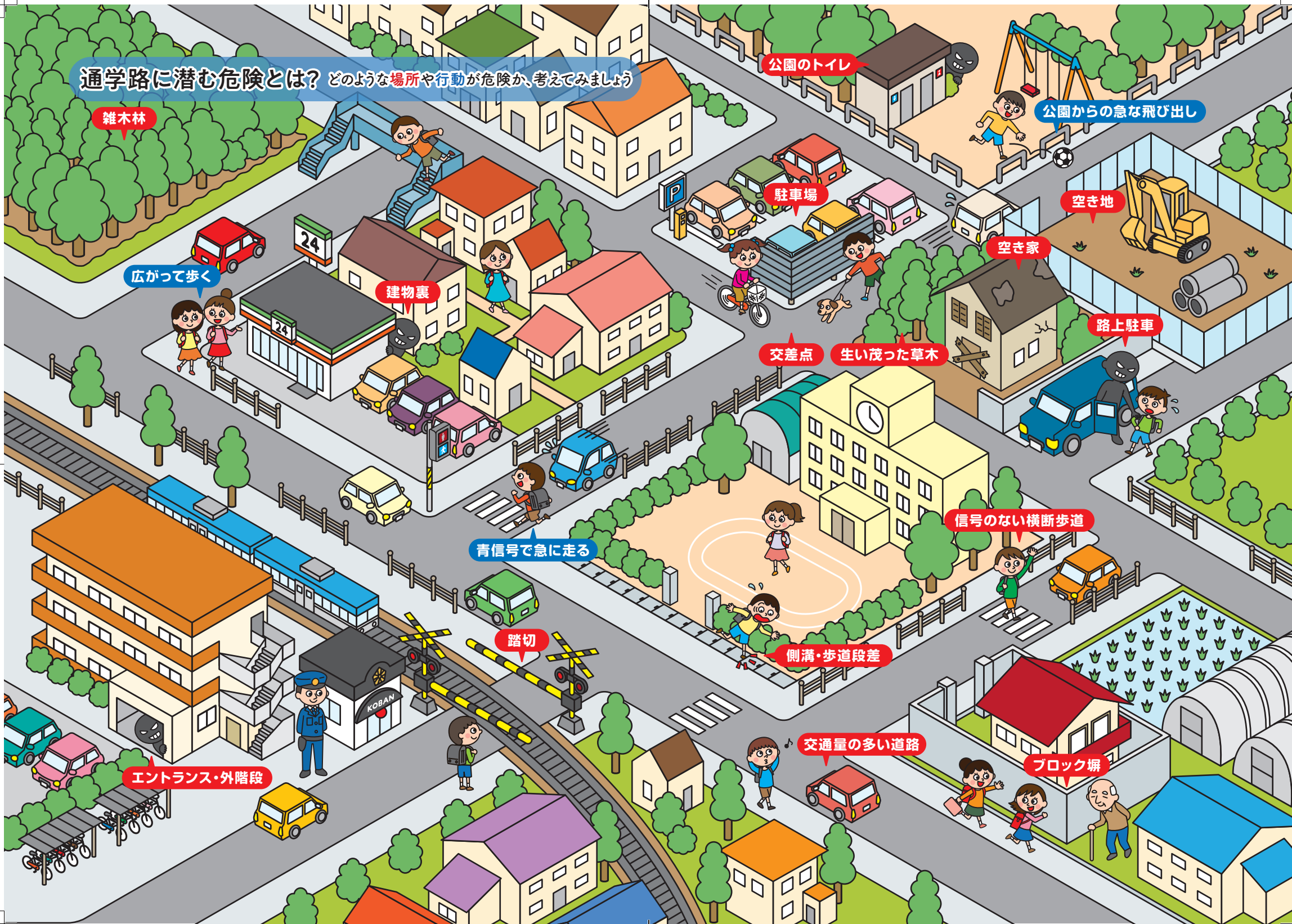
踏切

側溝・歩道段差

エントランス・外階段

交通量の多い道路

ブロック塀



見守り活動に係る注意事項

重点的に見守り活動を行った方がよい場所	交通安全の観点では、特に以下のような場所に注意が必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ● 交通量の多い道路 ● 歩車道の区別がない道路 ● 路側帯が狭い道路 ● 車両の走行スピードが速い道路 ● 交通事故が頻繁に発生している道路
	防犯の観点では、人通りが少なく、子供が一人になってしまう場所
見守り活動を行う際の留意事項	交差点などに立って見守るときには、自動車や自転車の死角とならない場所に立つようにしましょう。
	子供を横断させるために、過剰に自動車を停止させるなどの交通整理はやめましょう。 また、協力してくれたドライバーには一礼をするなど配慮しましょう。

子供の行動・特性に係る注意事項

- 子供(特に低学年の子供)は大人より視野が狭く、視点も低い
ため、大人と同じように危険を感じていないことがあることに
留意しましょう。

子供の行動・特性	注意事項(チェックポイント)
飛び出し	公園などからの急な飛び出しに注意が必要です。 自転車・歩行者との出会い頭の衝突の危険があります。
急に走る	青信号に変わったときや踏切の遮断機が上がった途端に走り出す子供に注意が必要です。
広がって歩く	自転車などの衝突の危険が高まります。また、他の歩行者や自転車の迷惑となるので注意が必要です。

ワンポイント

忘れ物に気づき家に取りに帰ろうとする子供は、集団登校から離れ一人になってしまうだけでなく、忘れ物を取りに帰ることに集中するあまり、周りが見えなくなってしまうことがあるので特に注意が必要です。

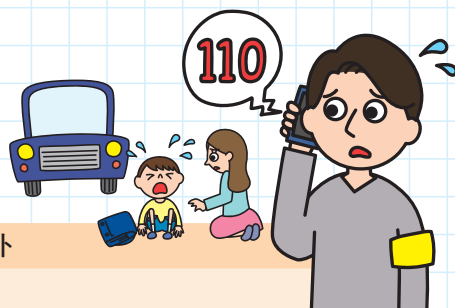
注意が必要な場所の例

場 所	状態(チェックポイント)
交差点	子供の飛び出しなど、出会い頭の事故のおそれがある場所です。
駐車場	駐車している車が死角となり、子供たちが隠れてしまうため、目が届きにくくなります。また、犯罪を企てている者が身を潜めやすい場所でもあります。
路上駐車	路上駐車は、その車両を避けて車道を歩くことによる交通事故の発生や、車からの声かけ、車への連れ込みなどのおそれもあり、歩車道の区別がない通学路では特に危険な場所です。
高架下・トンネル	特に夕方以降は暗くなるので注意が必要です。周囲からの見通しが悪く、人の目が届きにくくなる場所です。
(集合住宅等の)エントランスや階段	集合住宅等のエントランスや階段は、周囲からの死角となるほか帰宅時の子供が一人になる瞬間でもあり、犯罪を企てている者に狙われやすい場所でもあります。
建物裏	人通りのある大通りから見えにくいなど、建物裏は死角となり、人の目が届きにくくなる場所です。
公園のトイレ	トイレの中はもちろん、トイレの裏側なども人の目が届きにくい場所です。
ブロック塀	背の高いブロック塀は死角となり、子供たちが周囲から見えにくくなる場所です。また、適切な管理がなされていない場合、倒壊することによるケガのおそれもあります。さらに、落書きなどがあると、地域の不安感につながります。
空き家・空き地	人の目が少ないほか、建物は死角となる場所です。また、老朽化した建物が倒壊するおそれもあります。
雑木林	雑木林の中は人の目が届きにくい場所です。一方、子供にとっては遊び場として魅力的なもので、興味本位で中に入ってしまう子供に注意が必要です。
田畑	農作業をしていない時間は人通りが少なく、人の目が少ない場所です。また、ビニールハウスは周囲からの見通しも悪く、人の目が届きにくい場所です。
生い茂った草木	通学路にはみ出した草木は安全な通行の妨げになります。
側溝・歩道段差	側溝蓋のズレや歩道の段差は安全な通行の妨げになります。子供がつまづき、ケガをするおそれがあります。

3 こんなときどうする

活動中に交通事故や犯罪、不審な行動に遭遇したら

- 活動中に事故や犯罪に遭遇したら、自らの安全を確保した上で、すぐに110番通報しましょう。
- 必要に応じて学校や市町村へも報告しましょう。



見守り活動者の方々へ 緊急通報のポイント

- 通報前には深呼吸をしましょう。
 - 緊急事態に遭遇すると、どうしても焦ってしまいます。身の安全を確保した上で、まずは深呼吸してみましょう。
- 適切な情報伝達を心がけましょう。
 - 落ち着いて、次の情報を正確に伝えましょう。

- 何が起こったのか（誰がどういう被害に遭ったのか）
- いつ・どこで起こったのか
- 自分自身が今どこにいるのか、周囲はどういう状況か
- （できれば）犯人や事故を起こした車の特徴、逃走した方向

※自分の居場所がすぐにわからない場合は、道路名、交差点名、電柱、標識等の情報を伝えましょう。

市町村・学校の方々へ 何かあったらすぐ通報するよう伝えましょう

- 見守り活動はあくまでもボランティアであり、活動者の安全が第一です。活動者に対しては、何かあったら自分で対処しようとせず、すぐに110番に通報もしくは学校・市町村へ連絡するよう依頼してください。

活動中に危険箇所や不審な行動を発見したら

- 活動中に、通学路の危険箇所や、不審な行動を目撃したら、学校や市町村へ連絡・相談しましょう。
- 緊急性が高いと判断した場合は、警察へ連絡するようにしましょう。
- 報告事項について、様式を作成している例もあります。

具体例 情報連絡シート(例)

■ 情報共有の際には、次のような項目を報告しましょう。

報告日	令和〇〇年〇〇月〇〇日	
報告者	〇〇 〇〇（活動団体名：〇〇〇〇〇〇〇〇）	
項目	危険箇所の発見	不審な行動の目撃
時間		● 〇〇時〇〇分頃
場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 〇〇交差点付近 ● 〇〇～〇〇までの道のり 	● 〇〇公園内
具体的内容・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 〇〇交差点手前で側溝の蓋が外れている ● 〇〇～〇〇付近の草木が通学路を邪魔している 	● 遊んでいる子供たちに長時間スマホを向けている人がいた
その他	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 担当課へ連絡（〇月〇日） → 対処（〇月〇日） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 警察・学校へ連絡（〇月〇日） → 巡回を強化すること

4 持続可能な活動に向けて

無理をしない、無理をさせない活動を心がけよう

▶活動は、日頃の行動範囲を中心にしよう

- 見守り活動場所の分担は、活動者の自宅や通勤先等を基準に考えましょう。
- 活動場所までの移動手段を踏まえて、活動範囲を無理なく決めましょう。

▶ライフスタイルに合った活動をしよう

- 時間帯や頻度、方法はライフスタイルに合わせて無理なく活動しましょう。
- 各自が少しずつ、できる範囲で子供や地域に目を向けることが大切です。

▶楽しく活動しよう

- 一人一人が協力し合い、楽しく活動しましょう。
- 活動者同士だけでなく、保護者、学校、市町村、警察、地域住民等が思いやりながら、互いに強制することなく楽しみながら活動することが大切です。

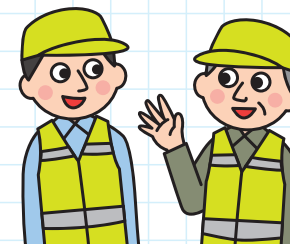
市町村・学校の方々へ 見守り活動者の心のケアにも留意しましょう

- 活動中、通学路で何かが起こっても活動者に責任はありません。しかし、活動者は心を痛め、自らを責めてしまう方が多く見受けられます。活動者がいなくなることは地域全体の損失となるため、活動者はあくまでもボランティアで、かつ責任はないことを広く周知することが大切です。

コミュニケーションを大切にしよう

▶挨拶をしよう

- まずは挨拶を大切にしましょう。
- また、「お疲れ様」「ありがとう」などの言葉をかけ合い、互いに気持ちよく活動しましょう。



▶日頃から顔を合わせ、交流を深めよう

- 活動者同士が顔を合わせる機会をつくりましょう。
- 意見交換会や連絡会、ワークショップ、研修会等は活動者同士の理解を深め、信頼関係を醸成するよい機会です。
- 見守り活動者同士の絆は、地域コミュニティの絆にもつながります。

見守り活動者の方々へ

日頃からコミュニケーションを取り、顔の見える関係づくりをしましょう

- 適切な情報共有に向け、日頃から他の活動者、市町村・学校担当者とのコミュニケーションを図り、いざという時のために、顔の見える関係づくりをしましょう。こうした関係づくりは、地域コミュニティの活性化にもつながります。

市町村・学校の方々へ

コミュニケーションの場を提供しましょう

- 地域全体で見守り活動を実施するには、市町村や学校がコミュニケーションの場をつくるのが大切です。意見交換会や連絡会、ワークショップ、研修会等、できるだけ多くの活動者が一堂に会することのできる場を積極的に提供しましょう。また、こうした場で活動者のニーズを把握することも重要です。

いろいろな人を巻き込もう

▶ 見守り活動者の募集方法を工夫し、様々な世代を巻き込もう

- 積極的な情報発信を行い、老若男女、様々な世代の活動者を募集しましょう。
- 情報発信する際には、幅広い世代の活動者を確保するため、市の広報誌やホームページだけでなく、SNSや学校の広報誌・ホームページを活用するなど、募集する方法を変える工夫をしましょう。
- また、募集に当たっては、活動者のメッセージを入れるなど、読んでもらう工夫をしましょう。

コラム 2 みんなに知ってもらえると、活動しやすくなります

京都市立御室小学校「御室こども見守り隊」 隊員(大学生)

大学2年生のときに、苦手な早起きを克服したいという思いと、学校や子供が好きで何か役に立ちたいという思いから見守り隊に参加しました。

活動開始当時は一人だけ年齢が離れていたためか「あの人は誰?」「なぜ立っているの?」と思われたこともありましたが、PTAの広報誌に顔写真付きで見守り隊の活動が紹介されてからは、保護者や子供の理解も得られ、活動中に声をかけていただくなど、活動がしやすくなりました。

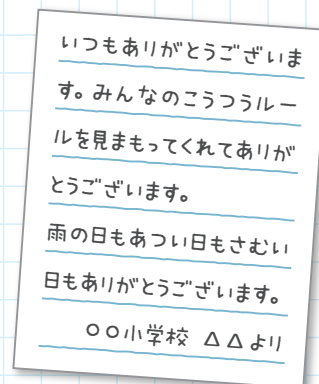
見守り活動者のモチベーションを向上させよう

▶ 積極的に情報発信をしよう

- 見守り活動の様子などを知ってもらうことは、活動のしやすさや、活動者のモチベーションアップにつながります。
- 様々な手段を活用し、積極的に情報発信をしましょう。

▶ 日頃から感謝を伝えよう

- 活動者にとって子供や地域の人からの「ありがとう」の一言はとても励みになります。
- 活動者に感謝の気持ちを届けるために、学校や市町村がそういった機会を設けるのもよいでしょう。



市町村・学校の方々へ 見守り活動者への感謝を忘れないようにしましょう

- 見守り活動の実施は一般的な取組となりましたが、見守り活動者が“いて当たり前”ではありません。保護者や子供による感謝の会を開いたり、日頃から見守り活動が地域にもたらす安心感を積極的に発信するようにしましょう。

コラム 3 子供たちの成長も見守っています

石川県金沢市立夕日寺小学校「夕日寺スクールサポート隊」 隊員

活動を続けていると、1年生だった子供がいつの間にか6年生になっていたり、卒業生の中学生や高校生が挨拶をしてくれたり、子供たちの成長を見守ることに喜びを感じています。